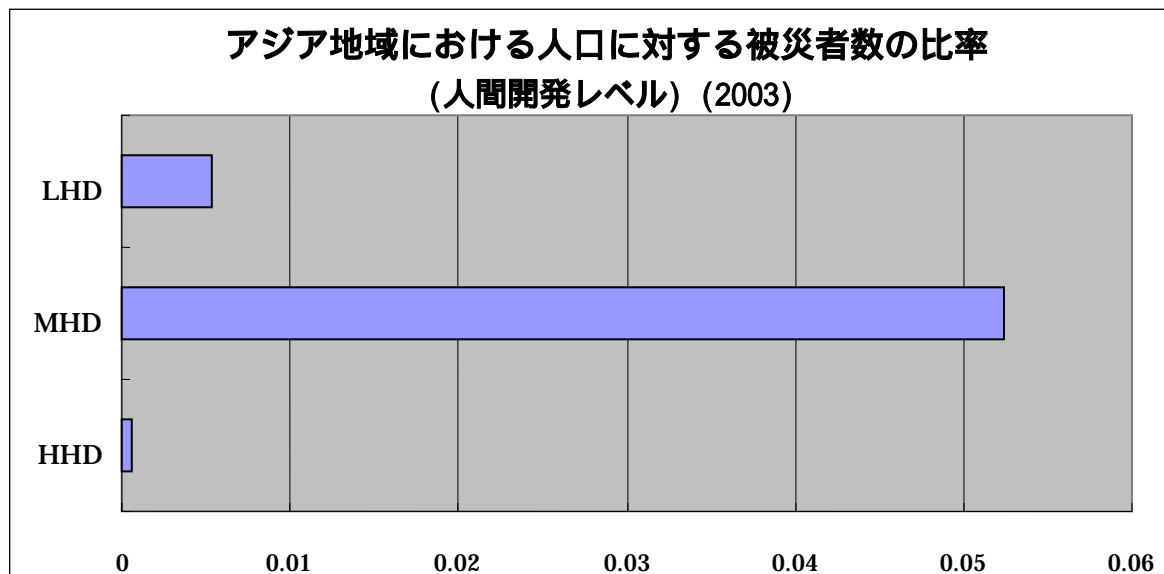


図 12



出典：アジア防災センター、CRED-EMDAT（ルーベンカトリック大学・ベルギー） UNDP、2003年

2.2 ジェンダー問題と自然災害のインパクト

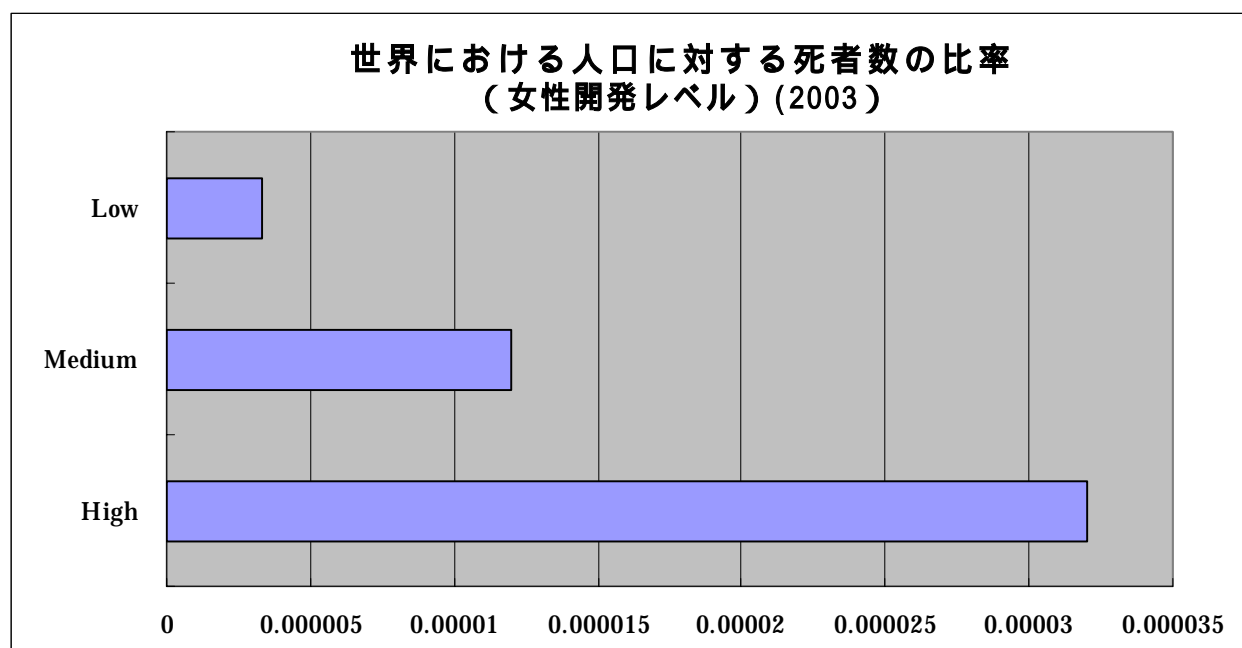
前セクションでは、人間開発と自然災害の与える影響との関係について分析したが、そのような問題だけではなく、ジェンダー問題との関連について考察することも極めて重要である。ここでは、一般の人間開発指標から抽出した女性の人間開発指標を使い、災害の特徴と関連させて、詳しく観察することとする。これまでの統計データに基づく傾向では、女性の人間開発指標が低い国々での被災者数の割合は、女性の人間開発レベルが高い国に比べて、非常に高くなっていた。これは、前述の国ごとの人間開発における分析と同じ傾向である。しかし、2003年における総人口に対する死者数の割合を見ると、ヨーロッパを襲った熱波による影響で多くの死者が発生したことから、女性の人間開発レベルが高い国で、高い数値を示している。図 13 および 14 での女性の人間開発指標において、中レベルの値が大きくなっている（特にアジア地域で）のは、イランの地震と中国の洪水が影響している。また、図 15、

16 より、被災者数の総人口に対する比率も中レベルの国々で高くなっている。これらの図より、人間開発レベル低・中位に属する国々だけでなく人間開発レベル高位の国々においてもジェンダーに配慮した計画策定や軽減政策、そして防災分野での取り組みが重要となっていることが分かる。

特にアジアの開発途上国では、女性によって直接的または間接的に、家庭レベルでの災害後の対応が行われている。女性は活動的で、優秀な災害対応者であると認識されながら、一方では無力な被害者でもあるとみなされる。女性に災害発生後の救援活動で活躍してもらうためにも、防災計画の中に適切なジェンダー問題を盛り込む必要がある。

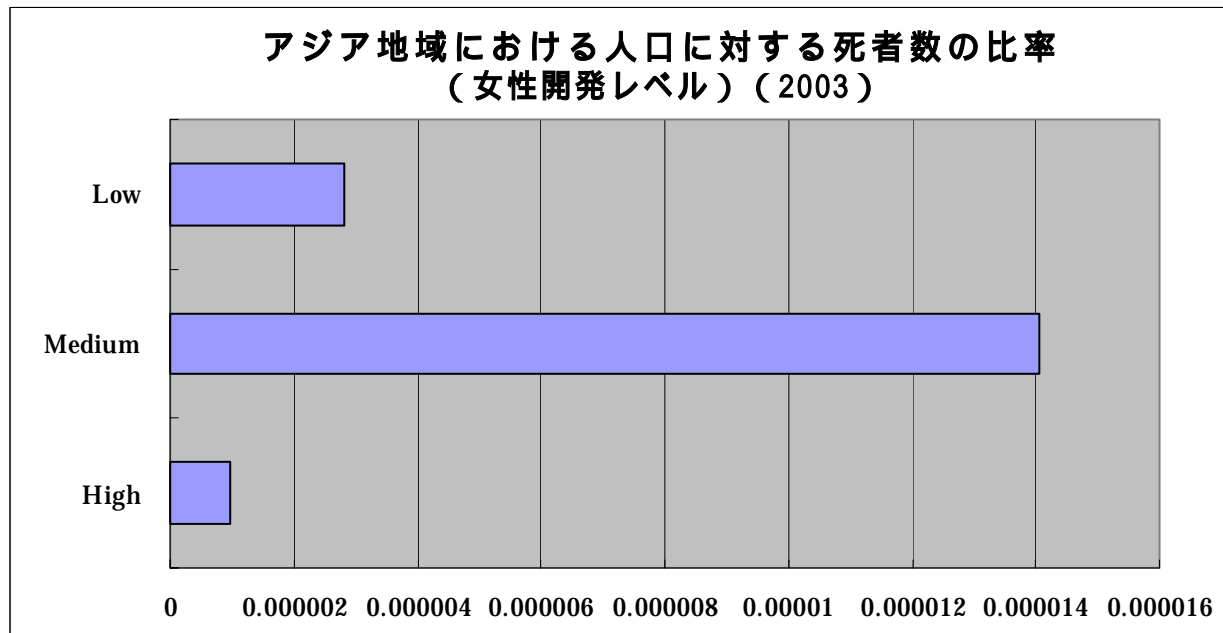
アジア地域における後発発展途上国の社会・文化的、経済的な側面の構造を見てみると、開発活動への女性の参加が重要であることがわかる。防災や危機管理活動は、開発戦略の一部として組み込まれるべきで、女性の参加が必須である。

図 13



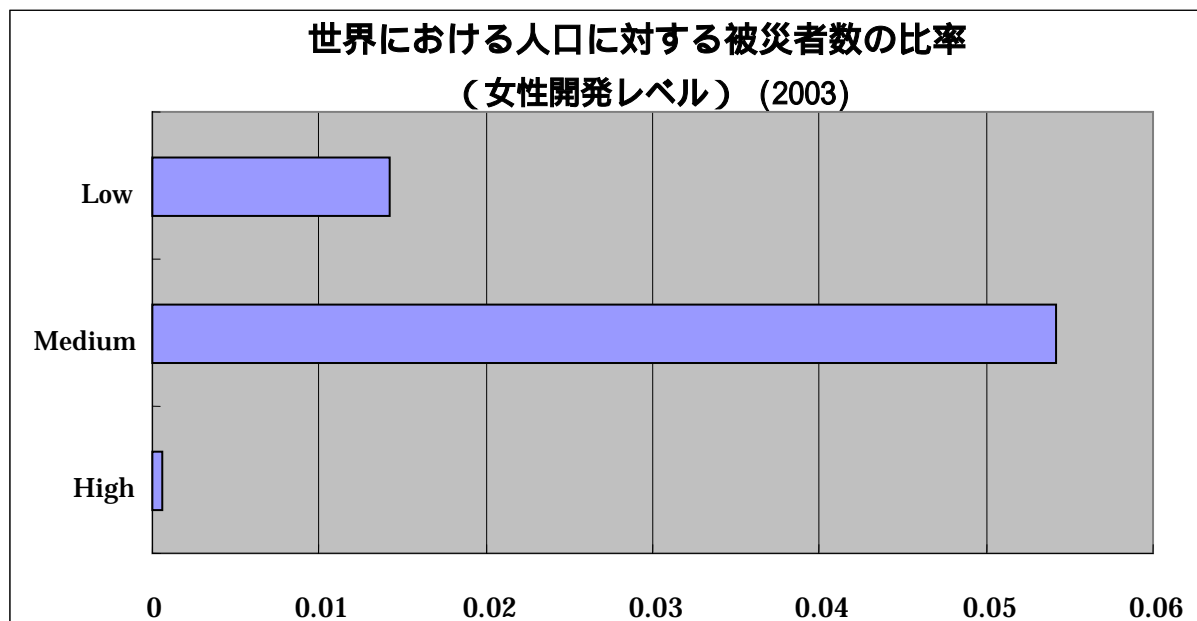
出典：アジア防災センター、CRED-EMDAT (ルーベンカトリック大学・ベルギー)、UNDP、2003年

図 14



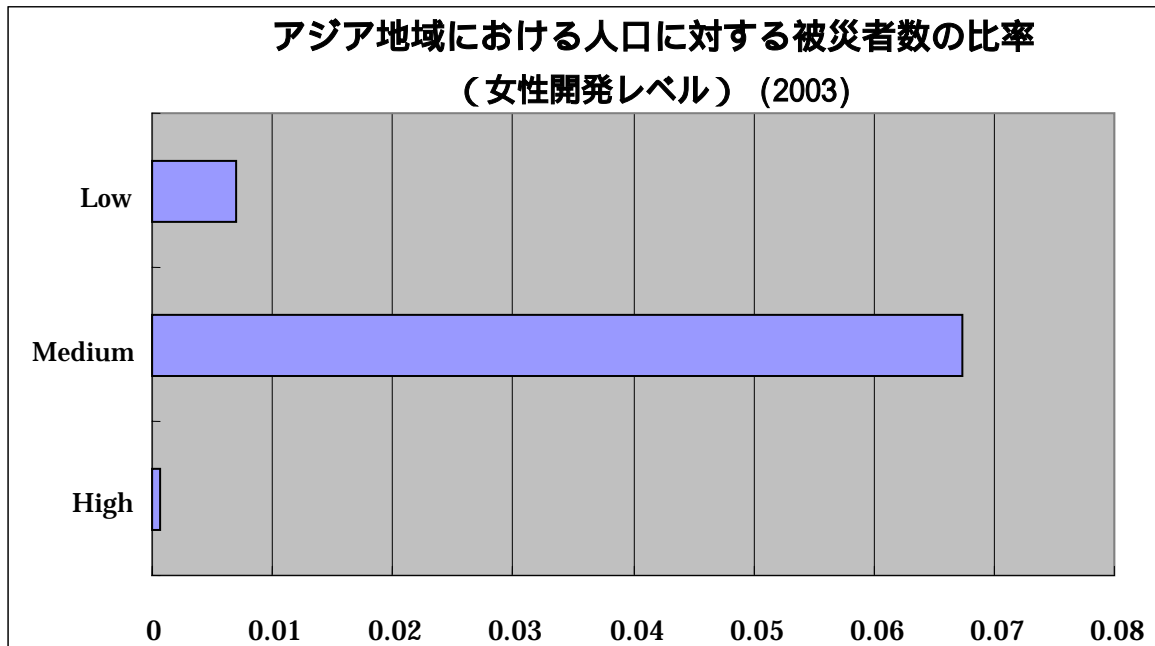
出典：アジア防災センター、CREED-EMDAT (ルーベントリック大学・ベルギー)、UNDP、2003年

図 15



出典：アジア防災センター、CREED-EMDAT (ルーベントリック大学・ベルギー)、UNDP、2003年

図 16



出典：アジア防災センター、CRED-EMDAT (ルーベカトリック大学・ベルギー)、UNDP、2003年

2.3 経済と自然災害のインパクト:

このセクションでは、国の所得レベルに焦点をあて、災害による影響との関連について分析していくことにする。国の所得レベルとは、一人当たりの GNI (国民総所得) から決定され、これは次の図からもわかるように、災害の特徴と関連している。高所得国を多く抱えたヨーロッパにおいて発生した熱波が多くの死者をもたらしたことを除けば、被災者数のほとんどが、低または、中の低所得国からもたらされたものであることは明らかである。

一般的に、高所得国は、社会資本を積み上げたインフラや経済基盤が発達しているために、災害による実質経済損失は高いが、開発途上国や低所得国で起こった災害による損失は、その国の GNI と比較すると、よりインパクトの大きい被害であることがわかる。さらに、以下の図からわかるのは、人的損失・被害については、低～中の低所得国がより被害を受けてい